

## 『指導的立場』の救命士としての取り組み

	都道府県名	沖縄県
	所 属	沖縄市消防本部
	氏 名	大城 章裕
(エンブレムなし)	職名・階級	消防署 警防課 副主幹・消防司令
	指導救命士養成研修 受 講 時 期	平成28年度 指導救命士養成研修 第1期 修了

現在沖縄市消防本部では救急活動訓練として、救助隊・水難救助隊（各隊兼任）を含む約70名が参加するブラインド型シミュレーション訓練を年間5回実施しています。

その中で「指導的立場」の救命士として取り組んだ事について紹介します。

### 【全体訓練を実現するために】

きっかけは救急救命九州研修所で学んだ講義と質の高い訓練内容に感銘を受け、この訓練を所属で取り入れるべく行動しました。

以前の訓練はテーマを各小隊に通達し、当務小隊が自主的に実施していたのですが、冒頭の訓練を導入するため、担当2名が署所を回り当務内での訓練から始めました。

内容としては、訓練毎に主眼を決めて、基本となる事を講義し、チーム活動の基礎となるBLS訓練を定着させ、その後ブラインド型シミュレーション訓練を実施し、同時にフィードバック検討会を確立させる事で訓練を実践化する事としました。

新しい試みは2つです。特定行為を救命士以外にも訓練で実施させ、救命士の処置時の思考や視野の狭さを体感させました。実際の立場を問わない配置で訓練を実施し、多様な視点を獲得させました。

この当務訓練を約4年間実施し、現場隊員の声と一般救急隊の教育の重要性が上司にも浸透し、冒頭の訓練を実施するに至りました。

### 【全体訓練の主眼】

各小隊に「指導的立場」の救命士の育成として訓練担当救命士を配置し、講義やシミュレーションを運営させる事。

「実施・フィードバック・運営」の3つを柱として全体訓練を起点に当務内での訓練の質を追求し実施完結できる事。

また、質の追求のため、訓練毎に無記名のアンケートを実施しました。

### 【指導救命士の役割】

私が指導救命士養成研修で体感した「全国的な視点」と、学問としての「指導」を活かすには、組織的に「指導的立場」の救命士を育成するという土台が極めて重要であり、指導救命士の役割とは「指導的立場」の救命士を育成し、機能するシステムを創り継続させていく事だと考えます。



全体でのBLS訓練



各ブースでフィードバック

### ブラインド型シミュレーション訓練

